

第1回気仙沼・本吉圏域会議

【日時】令和6年11月1日（金）午後2時から午後4時20分まで

【場所】気仙沼市水産研修センター

【委員からの主な意見】

（1）第6期みやぎ観光戦略プランの中間案

- 当圏域のインバウンドの伸びしろは非常に大きく、今後の期待も大きい。とてもよくできたプランだと思うが、優先順位を付けてターゲットを絞り、プロジェクトチームなるものを作って、ぜひ結果に結びつくような取り組みをしていただきたい。
- インバウンドをはじめ、各戦略の取組には財源が必要になるが、次期プランの中にはそれが明記されていない。宿泊税をはじめ、財源についてもはっきりプランの中に明記すべき。
- 本県にとってインバウンドの誘致は容易ではなく、宮城県の戦略として考えたときに、他県との優位性はどこにあるのかもっと議論し、その辺りをはっきり明記すべきではないか。
- 無料公衆無線 LAN の整備をはじめ、各取組の方向性を見ると、誰が取り組むのか分かりづらい。もっと明確にすべき。

（2）圏域の施策の方向性及び取組

①圏域の観光の現状課題・施策の方向性及び取組

- 当圏域にとって、スポーツツーリズムやイベントの誘致はとても重要である。次期プランにおいても推進していただきたい。
- 最近、トレッキングをする外国人をよく見かけるようになり、サーフィンやキャンプをしたいと道具等のレンタルの問い合わせがあった。そういった問い合わせに対応できるようなインバウンド向けのサイトを作り、プロモーションに力を入れると良いと思う。
- スポーツツーリズムの誘致等に取り組んでいるが、人手が限られるため、利用者からの宿泊先や飲食店などの問い合わせに十分対応できていない。圏域の宿泊先や飲食店、他の周遊先の情報が戦略的に一目でわかり、案内できるような情報サイトがあると良いと思う。
- オルレとみちのく潮風トレイルの外国人客層が異なり、トレイルはロングコースであるため、その日のスケジュールをその日に決めるバックパッカー的な人が多い。日本語が話せない人も多く、このような利用者をどう呼び込んでいくか課題である。トレイルに力を入れるのであれば、コースを跨ぐ岩手県との連携も重要である。
- 宿泊した外国人からは、「東京や大阪はもうつまらない。東北の食文化に触れてみたい。」といった声を聞いた。家の神棚や仏壇に大変興味を示す人もいた。こうした日常的な隠れた魅力を広く世界に発信できたら良いと思う。
- 当圏域にとって、県と事業者が一体となり、圏域の魅力をどのように情報発信していくかが重要である。インバウンドで言えば多言語化はもちろん、従業員の教育もしかりである。
- 当圏域への旅行の交通手段は、8割以上がマイカーによるものと考えられるが、今後のインバウンド誘致の推進を考えると、現在の一次交通もかなり不便で、バス・タクシー事業者においても経営的に苦しいことから、ハード面も含めた交通アクセスの更なる改善が必要ではないか。
- 当圏域にとって、マリンスポーツや化石発掘体験などのアドベンチャーツーリズムはとても有

効であり、国内旅行やインバウンドの誘客促進にも繋がると思う。ただ、これらのコンテンツの提供者は個人の事業者が多いので、今後の磨上げに向けた協力や支援をお願いしたい。

②圏域別数値目標の設定の方向性

なし

（３）みやぎ観光振興会議設置要綱の一部改正

- 宿泊税の導入について、まだまだ議論が出尽くしているとは言い難く、既に宿泊客からも問い合わせがあり不安である。これから施行されるまでの１年間、宿泊事業者への真摯な説明と、今後設置される宿泊事業者部会で、話し合いの場を設けるようお願いしたい。